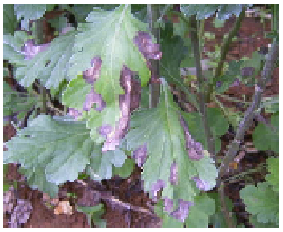
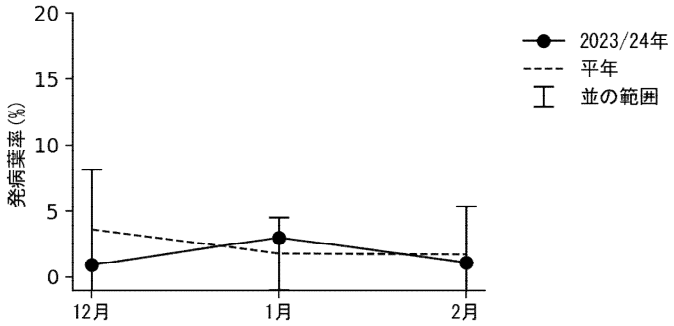
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予　報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

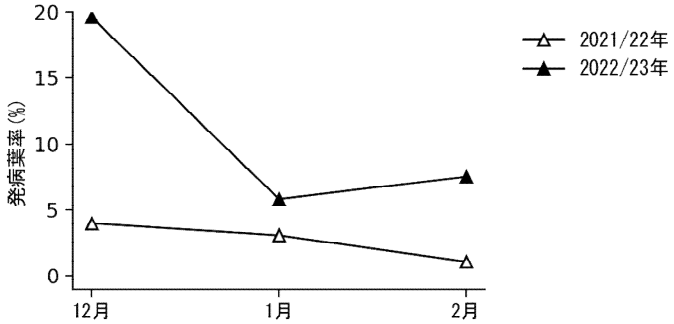
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生ほ場率33.3%（平年：22.0%）

防除のポイント

・発病葉は伝染源となるので速やかにほ場外に持ち出し処分する。

・ほ場の排水・通風を良くする。

・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

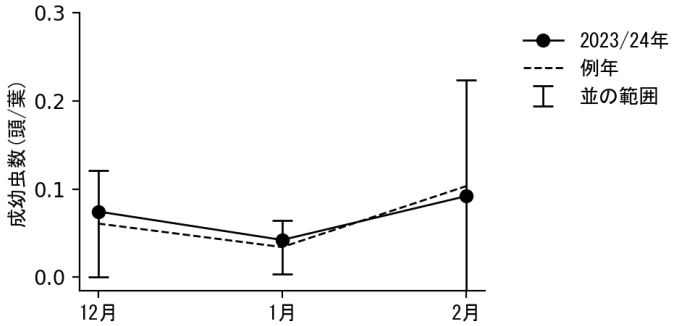
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		クロゲハナアザミウマ	
調査結果	2 月の発生量（例年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（例年比）	—		
予報の根拠				

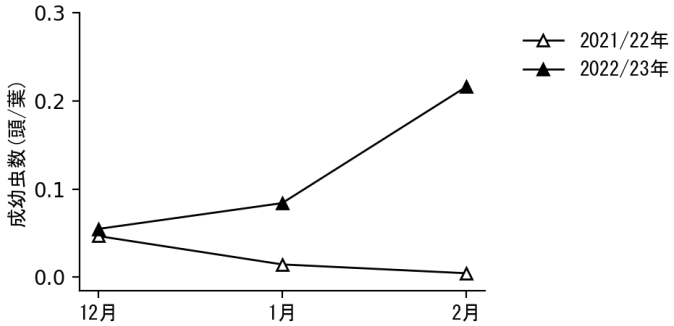
調査結果

成幼虫数の推移

＜今期と例年＞



＜過去２年＞



・発生種：クロゲハナアザミウマ

・発生ほ場率88.9%（例年：47.1%）

防除のポイント

・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

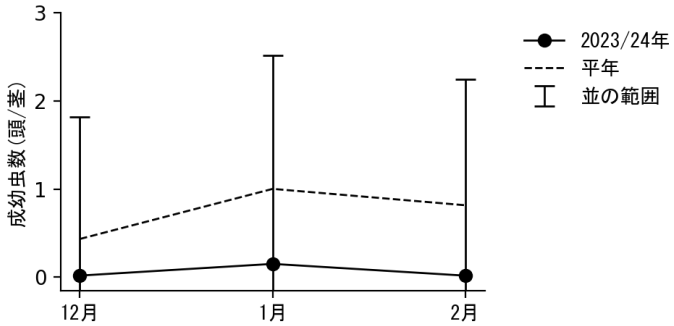
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		有翅虫	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	―		
	3 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

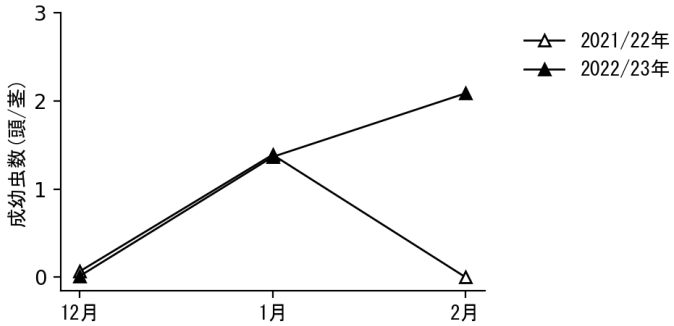
調査結果

成幼虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：ワタアブラムシ

・発生ほ場率33.3%（平年：34.7%）

防除のポイント

・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。

・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。

・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

被害の様子

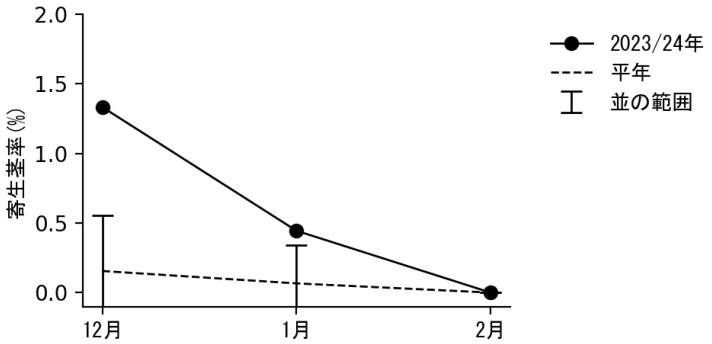
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	2 月からの増減傾向	―		
	3 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

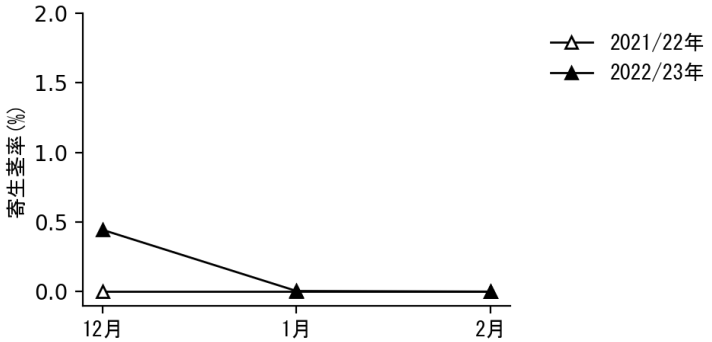
調査結果

寄生茎率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞

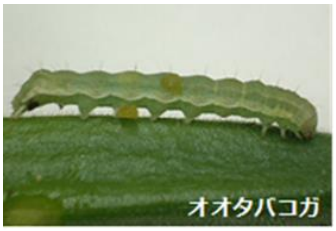


・発生ほ場率0%（平年：0%）

防除のポイント

・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。

・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



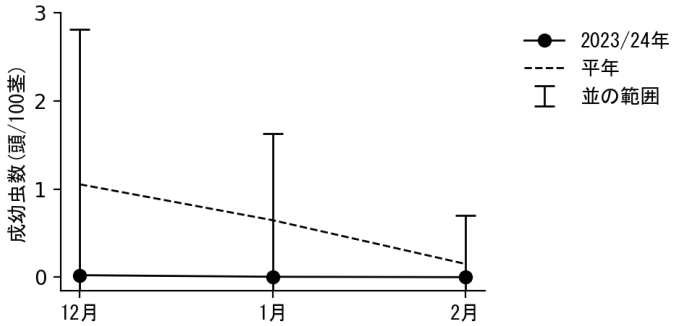
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	2 月からの増減傾向	―		
	3 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

調査結果

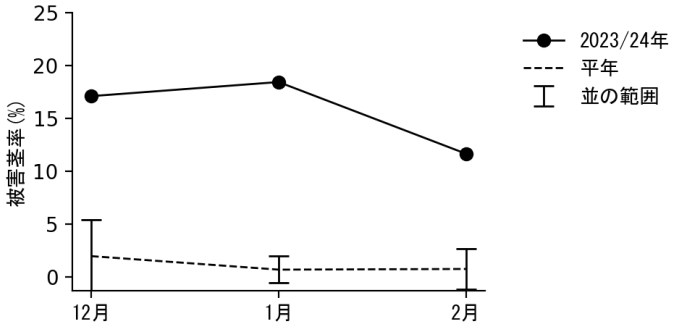
成幼虫数の推移

＜今期と平年＞



被害茎率の推移

＜今期と平年＞



・発生種：ウスモンミドリカスミカメ

・発生ほ場率0%（平年：4.3%）

防除のポイント

・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。

・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。

・防除は成虫の出現初期から５～７日おきに実施する。

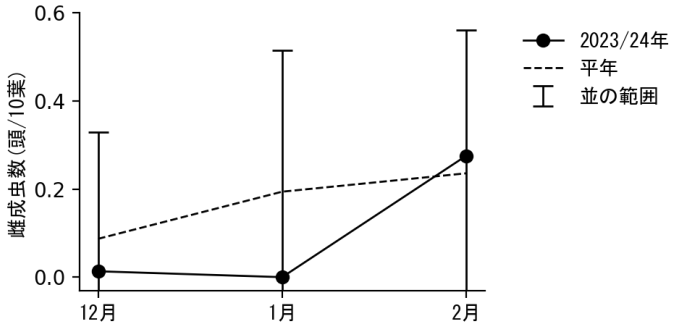
令和　5 年度　　3 月予報

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		ナミハダニ	
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	―		
	3 月の発生量（平年比）	―		
予報の根拠				

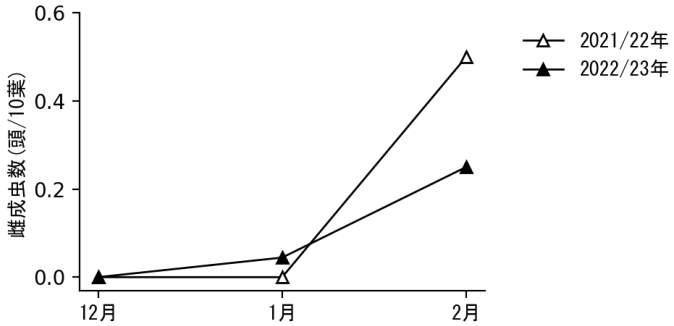
調査結果

雌成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：ナミハダニ（黄緑型）

・発生ほ場率33.3%（平年：17.2%）

防除のポイント

・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。